令和二年度総会報告

令和二年度全国足利氏ゆかりの会総会については、当初、前年度総会で決定したとおり京都府亀岡市開催を予定しておりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全国的なイベントや会議等の開催については慎重に検討していく必要があることから、令和二年六月に臨時役員会（書面決議）を開催し、総会の実地開催可否について審議いたしました。

その結果、総会・懇親会、移動を伴う奉告祭やエクスカーション時における新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じることが困難であると判断し、亀岡市内での総会や懇親会、奉告祭及びエクスカーションは中止とし、令和二年度総会については「書面決議」による開催となりました。

議案第一号「令和元年度事業結果」、第二号「令和元年度収支決算」、第三号「令和二年度事業計画（案）」、第四号「令和二年度収支予算（案）」、第五号「会則変更（案）」については、原案のとおり、提出書面（全会一致）により承認、決定されました。

また、令和三年度総会開催地については、亀岡市様に次年度スライド開催について了承を賜わりましたので、報告させていただきました。

会員からの情報提供

栃木県　さくら市

書籍「足利の血脈　書き下ろし歴史アンソロジー」が発刊されました。

新書『応仁の乱』がベストセラーになって以降、関心が集まっている「足利氏」は、NHK大河ドラマ『麒麟がくる』でも注目されました。

令和二年十二月十九日から全国書店で販売している本書は、戦国を語る上で欠かせない「足利氏」をテーマに、七名の歴史時代作家が書き下ろした短篇小説を収録したアンソロジーです。

著者は、大人気シリーズ「口入屋用心棒」の著者の鈴木英治氏をはじめ、二〇二〇年上半期の直木賞を受賞した川越宗一氏、二〇二〇年の中山義秀文学賞を受賞した木下昌輝氏など、ベテランから新進気鋭まで、実力派ばかりです。

これまで戦国史を語る上で、メインで書かれることがなかった「足利氏」を軸に、この時代の画期となる出来事を時系列で描いていくことによって、〝もう一つの戦国史〟が浮かび上がります。

巻末には、さくら市歴史散歩も収録されております。ぜひご覧ください。

「足利の血脈」目次

第一話　早見 俊
◎嘉吉の狐：古河公方家誕生
第二話　川越宗一
◎清き流れの源へ：堀越公方滅亡
第三話　鈴木 英治
◎天の定め：国府台合戦
第四話　荒山 徹
◎宿縁：河越夜合戦
第五話　木下 昌輝
◎螺旋の龍：足利義輝弑逆
第六話　秋山 香乃
◎大禍時：織田信長謀殺
第七話　谷津 矢車
◎凪の世：喜連川藩誕生

コラム　喜連川足利氏を訪ねて：栃木県さくら市歴史散歩

収録作品は、いずれも書き下ろし！

令和二年十二月十九日(土曜日)には早見 俊先生、川越宗一先生、鈴木 英治先生、荒山 徹先生、秋山 香乃先生、谷津 矢車先生の六名による著者のトークショーやサイン会を実施しました。

一般社団法人　足利市観光協会

足利市には、室町幕府を開いた足利将軍家の先祖が残した多くの寺社があります。

ご承知のように清和源氏の流れをくむ足利氏は能や茶道などの日本文化を広め、全国各地にその偉業を残すとともに歴史にその足跡を印しています。

この度、足利氏やそのゆかりの寺社を広くPRするため、足利氏初代当主 義康公の二代前 源義家公から室町幕府を開いた八代 尊氏公に至る、歴代の足利宗家当主ゆかりの寺社を紹介した御朱印帳を作成しました。ゆかりの寺社は足利市をはじめ、鎌倉市、京都市の寺院も含めて紹介しています。

この御朱印帳をきっかけに、観光客の皆様に各地に残る足利氏の歴史的文化遺産を知っていただき、新型コロナウイルス感染症が収束した後には、御朱印帳を片手に足利氏ゆかりの寺社を巡っていただけると幸いです。

販売場所…太平記館・足利観光交流館(あし・ナビ)
販売時期…令和三年二月八日(月)から販売中
販売価格…1,650円(税込)
デザイン…濃紺、布張り、蛇腹式、
表　紙…御朱印帳
裏表紙…足利氏家紋(箔押し)
サイズ…大判タイプ(縦18×横12㎝)
リーフレット：源義家公、義国公、足利氏初代 義康公から八代 尊氏公に至る足利宗家当主ゆかりの寺社を紹介(足利市・鎌倉市・京都市)

その他：御朱印は、各寺社の所定の御朱印を授与いただきます。(足利氏に関する特別な御朱印ではありません。)

通常の御朱印帳のため、リーフレットで紹介した寺社以外の寺社の御朱印をいただいても差し支えありません。